

不登校の解消K君の場合

彼とは20**年4月17日に、某市内のNP0静岡県教育フォーラムの正会員の教室で初めて会った。祖父母とご両親に、3歳下の弟の6人家族の長男。聞くに、中学校1年生になったばかりの4月下旬、7人の友達から筆箱を隠されたり、無視されたり、仲間はずれのいじめを受け、不登校に。男子10人、女子11人の僅かに21人のクラス故、7人からそのようないじめを受けると、構わないでいることもできず、辛かったと言う。

欠席が嵩（かさ）むため、それでも1年生の後半は、夕方生徒が帰ってから学校に行くことにしたが、2年生からは午前中に1,2時間の授業を受けて、帰宅したとのこと。結局、2年生は40数日の欠席。

いよいよ3年になってもそのような状態が続いたため、当フォーラム主催の「不登校・引きこもり無料相談会」の新聞記事を見て来られた。

早速心理テストを採ったのが下の黒色のグラフで、CP=父性5、NP=母性52、A=知性60、FC=感性23、AC=順応性100という結果。

彼は、CPの低さから、君がいじめを受けても跳ね返せない、きちんと抗議もできず、且つ、FCの低さからいじめに対する怒りも出せないから、いじめを受けやすい素因があると指摘し、彼が学校に行けない心理的素因は、異常に高いACから自分がどう思われているか異常に気にして、高いAのためあれこれと頭で考え過ぎており、かといって低いCPのため、今こうしなければならぬ、則ち、学校に行かなければならぬという意識が弱く、学校に行くという行動を起こせなくしていること、と説明した。

でも、彼はもう中3という年齢を考え、何とか学校に行きたいと言われたが、彼の家からは当フォーラム事務局は遠く、出席認定を取りながら当フォーラムに通うことはできない。そこで、私は彼に、まずはメールのやりとりで、CP父性の成長を促すためのプログラムを提案しました。

5月に入ると早速その効果が現れ始め、「先生、この連休の後に修学旅行があるんですが、先生は行った方がいいと思いますか？」というメールが来ました。私はあくまでも自分で決めるように返事した。不登校の子どもは、自分のことを自分で決めない。実行できない時に、言い訳ができないからだ。

5月6日、1泊の下田の交流合宿から帰ってきたら、彼から「今日学校に行って来ました。明日から修学旅行に行ってきます。K。」と言うメールが来ていた。お母さんから、息子の突然の変化に驚いた旨のメールが来ていた。

その4日後、彼から「修学旅行は本当に楽しかったです。いじめた子達もいい友達になっていました。先生、これからどうすればいいのですか？」というメールが来た。まだまだ自主性が育っていない。私は彼に逆にどうすればいいと思うかを尋ねた。すると、彼は「今学校に行っても授業が分からないから、すぐにでも勉強を教えてもらいた。」とのメールが来た。

こうしたメールのやりとりもカウンセリングのひとつである。私は、彼のCPの成長を実感した。前述の通り、彼は当フォーラムの事務局教室からは遠方に住んでいるため、インターネットで英数国の授業を受け、演習問題を解いて理解していくシステム、当時、私が理事長を兼務するNPO日本インターネットスクール協会提携したばかりの「すらら」を紹介し、学習を始めさせた。

定期的に私とインターネットのWeb会議システム(スカイプ)で面談もした。そうになると、次は彼のFCの成長を促すため、私は彼に夏のフィリピン・セブ島での交流合宿参加を勧めた。最初は初めての海外旅行のため興味があり、参加を快諾し、事前の実施説明会やカヌー体験の参加者交流会に参加したりしていたが、出発1ヶ月前になった時、突然の参加を渋り始めた。お母さんが参加を促しても、頑なに拒否し始めた。そこで、私は彼と賭けに出た。

交流合宿出発のちょうど10日前の夕方のこと。事前に旅行会社の担当者に事情を説明し、航空チケットを発券して頂き、私が運営する予備校にお母さんと二人で来て頂いた。

「この4月、私は君から君が学校に行くという希望を実現する仕事を受け、君とのメールのやりとりからまずは君が修学旅行に行くことを実現させた。君は信じられなかったかも知れないが、前から私が言っている通り、人は本当にそう望めばこうして変わることができる。今回の交流合宿は、同世代の仲間達とコミュニケーションを取る練習にもなり、君が**中学校に通ってみんなと一緒に授業を受けられるようになるためには絶好の機会だと思うし、君を修学旅行に行かせることができたから、今度も君を学校に行かせる自信がある。だから、私は今日が出発の10日前で航空チケット発券の最終日になってしまったので、こうして君の分のチケットを私のお金で発券して貰った。これを生かすも無駄にするのも君次第。勿論、無駄にしてしまっても、これは私が独断でしたことだから、私に悪いなど考える必要はない。どうするか返事が欲しい。」と、私は彼に決断を迫った。

彼は下を向き、3人の間に暫く沈黙が続いた。心配になったお母さんはたまたま「K、お母さんも先生が仰る通り、Kが変わる本当のいい機会だと思うよ。だから、合宿に参加して。」と言う。私は黙って彼の返事を待った。1,2分経っただろうか、私には随分長く感じたが、彼が「先生、本当にこの合宿で僕は変わることができますか?」と言い終わるや否や、私はすぐさま「できる!」と答えた。

お気づきの通り、彼は”確認”のためにそう質問したので、私の答えはYESしかなかった。その後、勿論彼は「分かりました。僕は自分を変えるために、合宿に参加します!」と答え、お母さんの顔にも笑みが浮かんだ。

私もこんな賭けはこれまで何度も経験した。もうお分かりの通り、今回の賭けは実は賭けではなく、パフォーマンスである。彼のために”買った”チケットに、私はお金を支払っていなかった。旅行会社の担当者が私の意図を聞き、協力してくれたのだ。担当者も、結果的に彼が学校に行けるお手伝いできた喜んでくれた。

これも大事な不登校・ひきこもりの対応である。対応する不登校・ひきこもりの青少年

を、彼（彼女）の将来のため、絶対にそれを解消させる、受けた仕事は絶対に完遂して、その対価としてお金を頂く。どんな仕事もそうなのですが、不登校・引きこもり解消の仕事には、そういう気概が必要だと思います。

話はこれで終わらない。今回の合宿はこの30数年（当時）のこうした活動の中で初めて体験する、まあ、大変な交流合宿だった。

と言うのは、フィリピン・セブ島での交流合宿出発の8月17日、Tサブリーダーがパスポートを忘れるハプニングがあったものの、マイクロバスで朝6時40分に出発。焼津ICから東名に乗り、途中鮎沢PEで休憩。首都高も順調で、渋滞どころか一度も止まること無く、10時過ぎ、酒々井SEで時間調整のため、30分も休憩。11時には成田空港着。いよいよ12時、航空チケット発券になった。

ところが、フィリピンの場合、15歳未満の未成年者が親権者の付き添いなしに旅行する場合、同意宣誓供述書の証明を親権者が事前にしなくてはならず、それをしてないことが判明した。実は、今回は経費節減のため、現地の旅行会社を通さず、協力頂いてきたALTA（寄宿舎のある語学学校）も、これまで生徒の殆どが15歳以上の子達で、15歳未満の未成年者は必ず親権者と同伴だったため、ALTAも旅行会社もその法律、数年前人身売買防止のため制定した法律に気づかず。そのため、7名の15歳未満の参加者の航空チケットが発券できず、ALTAを紹介頂いた元県議やALTAのスタッフと連絡を取りながら、今回初めてご同行願った添乗員さんと対応を協議。

合宿の趣旨から全員参加の原則を守り、出発30分前にやむなくPR-433便搭乗をキャンセル。翌18日のセブ行きの航空チケットが予約できないため、18日は一日ディズニーランドで楽しむことにし、旅行会社が手配してくれた成田レストハウスに宿泊した。18日、添乗員さんは前日の気疲れかぐっすり朝寝坊、朝食にも遅れる始末。午前中、K君を含めた参加者とリーダー達は、ディズニーランドで楽しんでいる中、フィリピン大使館と連絡を取って頂いていた元県議（今回の合宿先の紹介者）より、ホテルで待機していた添乗員さんに連絡が入り、私と共にフィリピン大使館に副領事を訪ねよとのことで、私と添乗員さんと共にフィリピン大使館に出向き、副領事と対応を協議。副領事は自身の手で手続き処理を行い、何とか間に合わせる旨の提案を頂いたが、15歳未満の参加者達7名（静岡・藤枝・岡崎各市在住）の書類が物理的に間に合わないことに加えて、航空チケット予約が翌々日の20日でないとできないとの連絡を受け、誠に残念ながらセブ行きを断念した。

旅行会社は責任を思い、グアム、ブーケートを提案してくれるも、私は合宿の趣旨を考え、島内3カ所が2003年に世界遺産にも登録され、様々な体験もできる大韓民国・濟州島行きを懇願した。15時、先に航空チケットとホテルが予約できたグアム行きをキャンセル。15時半、宿泊先が確保できないまま濟州島行の航空チケットを確保。16時半、待ちに待った濟州島のホテル確保の連絡が添乗員さんの元に入り、添乗員さんは安堵の思いを噛みしめる間もなく、ホテルに戻り濟州島3泊4日の準備をして頂いた。

彼はディズニーランドで遊び疲れたと、14時頃からディズニーランド内の集合場所に来

て、私達の対応をじっと見ていた。

19時過ぎ、ディズニーランドを満喫した参加者全員ホテルに戻り、夕食。参加者全員、心理テストを採った。

その時の彼のエゴグラムは水色のグラフである。見事にACとFCの逆転を果たし、CPも見事に成長した。自分の気持ちを素直に出し、心から仲間達との交流を果たすことができるようになり、自分の今すべきことの意識もしっかりと芽生えてきた。K君のエゴグラムの変化に、私はこの合宿の成功を確信した。と言うよりは、ホッとしたのが本音である。

その夜、心理テストの変化に気づいて私の部屋に来た彼に、「実は参加した小学生に『あのお兄ちゃんは優しいから、困ったらあのお兄ちゃんに聞きな』と言っておいた。だから、君はあの子らに頼られてこの合宿での自分の立ち位置を実感したと思う。仕組んでごめん。でも、明日からは下の子の面倒は見なくていい。思う存分この合宿を楽しめ。もっと君は変わる！」と言った。

19日、釜山経由で夜9時、済州空港到着。急遽お願いした現地旅行会社の大変明るく元気なガイド、ユンさんの出迎えを受けた。このユンさんのお陰で更にK君のエゴグラムの変化を促し、K君にとっても3泊4日のホントに楽しいJE-JU交流合宿になった。カムサムニダ〜。

と言うのは、翌20日は、大きな体の彼が大好きな海水浴を果たせ、参加者みんなと楽しく過ごし、その日のエゴグラムはピンク色のグラフで、FCとACが完全に逆になり、僅か4ヶ月前と正反対になった。

また、22日には、済州島の東端にある、海底火山が大噴火し、隆起してできた高さ約160mの城の形をしたもう一つの世界遺産・城山日出峰を、往復約1時間かけてその頂上に登った。ユンさんの励ましを受けながら、不登校のためか運動不足ながら最大傾斜43度のこの山を息も絶え絶えながら最後に登り切り、参加者みんなが拍車喝采（これも大事な対応。前夜のスタッフミーティングで仕組んだパフォーマンスである）。その疲れも忘れるほどの頂上からの絶景に感激した。

この達成感は正に筆舌に尽くしがたく、彼をしてこうした交流合宿の大きな効果を知らしめた。合宿先の変更で1日増えた交流合宿から帰国した翌日、彼は1泊2日の私が紹介した0高校の体験入学を経験。その高校が大変気に入り、高校進学希望を強くし、8月28日からの新学期に、**中学校の授業復帰を果たした。その28日の夕方、「学校って楽しいね。」と父親に話すK君の言葉に声を詰まらせたお母からお電話を頂いた。

その後の彼の高校生活は、彼のお母さんから頂いたメールに示されています。

「こんにちは山下さん、インフルエンザも流行りだしていますが、体調はいかがですか。新聞でセブ島募集広告をみました。一年前のKのことが思い出されました。あの3年間に比べると、今のKは180度の代わりようです。とにかくよく喋り、笑います。これはK自身も認めていることです。一学期を終え、私がびっくりしたこと。先輩に殴られ、理由に納得できないのか、先生の了解で殴り返した。クラスの仲間にも執拗にちょっかいさ

れ、これ以上やると本気で殴るぞと言ったそうです。自分で気になる白髪を担任の許可をえて黒く染めました。こんなに自分を出す事ができたら、中学でも思ったりもしますが、全ては寮生活での自立が一番でしょうね。勉強は、英語はやはりクラスで真ん中で大変らしいですが、担任は、2年になるとき上のクラスになり、難しい勉強にチャレンジし、大学を目指せとはっぱをかけられ、夏休み終了1週間前に、帰り特別授業を受けました。大学に行く行かないはさておき（実際はS大学に進学・卒業した）、勉強に意欲が出たことはいいことです。昨年の12月に先生の車で静岡と藤枝で勉強した頃より、自分で勉強したい気持ちになっているからです。先日藤枝での悲しい事件（市内の女子中学生2人が商業施設の屋上から飛び降り自殺した）、今日の新聞でいじめた子供達に変化はないと記事になってました。このような記事がでると、Kもそういう気持ちになりかけていたことがあっただけに心が痛みます。本当にこんなばかげた [いじめ] という言葉がなくなっただけにいいのに。ゲームの世界のように死んでしまっても、リセットできないことを多くの子供達に理解してもらいたい気持ちです。」

そして、彼は高3の修学旅行を自分で計画し、カンボジアの辺境の村、電気も水道のない小数部族の部族長の家に1ヶ月、ホームステイ、いや、バラックステイしながら、身振り手振りで部族の人達と生活した。すごい変わりようである。

